

# カンタン

## 元気をみわけるチェックシート



～ CAT ～

福井県動物愛護センター

### ◆猫の健康管理◆



日頃から動物の健康状態を確認し、異常があれば動物病院に相談しましょう。

- ① **元気食欲**…様々な原因から現れる、飼い主さんが一番気づきやすい症状。
- ② **排便排尿**…便の形状(軟便、下痢、血便など)や尿の回数、量、色などのチェック！  
\*おしっこが出ていない!…緊急性が高く、命に関わることも。  
\*多飲多尿(いつもより水を多く飲み、おしっこの量が多い)  
→ 病気の可能性があります。
- ③ **嘔吐**…異物や消化器疾患などの病気の可能性があります。  
\*異物を飲みこんだ可能性がある場合は早めに病院に相談しましょう。
- ④ **呼吸**…心臓病や呼吸器疾患、痛みなどから、呼吸が早くなることがあります。  
\*呼吸困難が認められる場合、緊急性が高いことが多いので、早めに病院に相談しましょう。
- ⑤ **目**…目ヤニや充血、しょぼつきなどは病気のサインかもしれません。
- ⑥ **耳**…外耳炎や中耳炎などで耳垢が溜まる、痒みが出てくる場合があります。
- ⑦ **鼻**…鼻水やくしゃみ、鼻血などの症状がないか。
- ⑧ **口**…口臭や歯石などのチェック!
- ⑨ **皮膚**…脱毛や痒み、発赤、できものなどの確認。
- ⑩ **歩行**…外傷や骨折、関節炎などから歩き方が変わることがあります。  
\*高齢の猫では関節炎が多く見られ、高いところに上らなくなるというサインが現れることがあります。



## ◆ボディコンディションスコア (BCS) ◆

人がBMIで体型をチェックするように、猫はBCSという指標を利用して体型をチェックします。

理想はBCS3です。



肥満は様々な病気のリスクにつながります。理想的な体型を維持して病気を予防しましょう。また、しっかり食べているのに痩せてきた、お腹だけが膨らんでいる（腹囲膨満）などの症状も病気のサインかもしれません。かかりつけの病院に相談しましょう。

### 猫のボディコンディションスコア (BCS) と体型

<b>BCS1</b> 痩せ	<b>BCS2</b> やや痩せ	<b>BCS3</b> 理想的	<b>BCS4</b> やや肥満	<b>BCS5</b> 肥満
肋骨、腰椎、背骨が外から容易に見える。首が細く、上から見て腰が深くくびれている。横から見て腹部の吊り上がりが見え、猫腰のひだには脂肪がない、ひだ自体がない。	背骨と肋骨が容易に触れる。上から見て腰のくびりは最小。横から見て腹部の吊り上がりはわずか。	肋骨は触れるが見ることはできない。上から見て肋骨の後ろに腰のくびれがわずかに見られる。横から見て腹部の吊り上がり、猫腰のひだがある。	肋骨の上に脂肪がわずかに沈着するが、肋骨は容易に触れる。横から見て腹部の吊り上がりははやや丸くなり、猫腰は窪んでいる。猫腰のひだは適量の脂肪で覆われ、下がり、多くと揺れるのに気づく。	肋骨や背骨は厚い脂肪におおわれて容易に触れない。横から見て腹部の吊り上がりは丸く、上から見て腰のくびりはほとんど見られない。猫腰のひだが目立ち、多くと盛んに揺れる。

[https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2\\_data/pamph/petfood\\_guide/pdf/full.pdf](https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/petfood_guide/pdf/full.pdf)

## ◆予防◆

ワクチンや駆虫薬によって防げる病気があります。また、予防として病院に通うことで、病気の早期発見にもつながります。

ワクチンや駆虫薬には様々な種類があるので、獣医さんと相談しながら動物の飼育環境に合わせた予防をしましょう。

### ・ワクチン

…ワクチンには全ての子に接種がすすめられるコアワクチンと、生活環境や飼い方など感染のリスクに応じて接種がすすめられるノンコアワクチンがあります。完全室内飼育の猫であれば、コアワクチンを含む3種混合ワクチン（猫ウイルス性鼻気管炎、猫カリシウイルス感染症、猫汎白血球減少症）が主流です。外に出る猫や感染猫と同居している猫は、ノンコアワクチンを含む5種混合ワクチン（3種混合ワクチン＋クラミジア感染症、猫白血病ウイルス感染症）や猫免疫不全ウイルス感染症のワクチンをお勧めします。



### ・フィラリア症（犬糸状虫症）

…フィラリア症というと、犬が感染する病気として知られていますが、近年、猫にも感染することがわかってきました。フィラリアに感染した蚊に刺されることによって、フィラリアの幼虫が猫の体内に侵入します。成長した成虫は肺や心臓の血管に寄生し発症します。突然死も引き起こす可能性のある、恐ろしい病気です。室内飼育でも感染のリスクはゼロではありません。毎年、蚊の活動時期に合わせた予防をしましょう。

### ・ノミ、マダニ

…ノミやマダニが寄生することによって、皮膚症状が引き起こされたり、ノミやマダニが媒介する感染症を予防するため、動物病院で処方された予防薬をお勧めします。

### ・『おなかの虫』（消化管内寄生虫）

#### …回虫、鉤虫、条虫など

感染すると、一般的な症状として、食欲不振、嘔吐、下痢、血便などがみられます。特に子猫では下痢が続くと、脱水症状が現れたり、発育不良になることもあります。

検便で感染を確認出来ないこともあるので、定期的な駆虫をお勧めします。



## ◆猫と泌尿器疾患◆

猫は泌尿器系の病気にかかりやすい動物だと言われています。  
猫はもともと砂漠で暮らしていた動物です。水の少ない環境でも水分を無駄なく利用できる仕組みになっており、腎臓はおしっこを濃縮する機能に優れています。

濃いおしっこを出すために腎臓には常に負担がかかり、疲れて機能障害を起こしやすいのです。【腎不全】

また濃い尿は、尿中のミネラルが結晶化し、【尿石】がでやすくなります。そして、尿石ができれば膀胱を傷つけ、【膀胱炎】を引き起こすことも少なくありません。

こういった泌尿器系の病気を予防するためには、日頃からの健康管理が大事です。

### 【トイレ環境づくり】

泌尿器系の病気の予防には、猫がストレスなく排泄できるトイレ環境づくりを心がけましょう。

- ☆ポイント
- ①静かで安心できる場所に。
  - ②猫にとって好みの砂で、しっかりした量を入れましょう。
  - ③清潔に保ちましょう。
  - ④トイレの数は「猫の数+1」が理想。



### 【水や食事、運動】

栄養バランスの良い食事を与え、常に新鮮な水を用意しておきましょう。  
また、肥満は病気の原因となります。フードの与えすぎには注意し、適度な運動ができるような環境を作りましょう。



\*頻尿や血尿、乏尿、無尿、多飲多尿などの症状は泌尿器疾患の可能性あります。

## 病気だと、こんな状態になることも…

### 異常が見られる猫の尿



血液が混ざっている  
(鮮血)



血液が混ざっている  
(褐色)



キラキラ光る結晶が  
混ざっている

### 猫にできやすい結晶・結石



ストルバイト結晶



シュウ酸カルシウム結石

<https://www.kao.co.jp/cat-health/about/>